

7組のキュレーターとともに、70組以上のアーティストたちが作品を展開します。それぞれの地域で住民や土地の記憶に触れ、豊かさ、強さ、厳しさや優しさを感じたアーティストたちは、さまざまなメッセージを発し、未知の世界を見せてくれるはずです。

Working with seven teams of curators, more than 70 artists will present their works. Artists who have encountered the memories of the people and land in various regions, and experienced their abundance, strength, severity and kindness, will communicate diverse messages and reveal unknown worlds.

A 石巻駅前エリア Ishinomaki Station Area

宮城県で仙台に次ぐ第二の都市である石巻のターミナルであり、電車、車、人々が行き交うリボンアート・フェスティバルの旅の拠点。海からは2kmほど離れていますが、天気や風向きによってはうっすらと海の香りが漂ってきます。

This is the central urban area of Ishinomaki City, Miyagi Prefecture's second largest after Sendai City. A short walk from Ishinomaki Station, which serves as a transit hub for visitors, is a shopping district with a wide range of dining options and accommodations. On an island in the Kyu-Kitakami River is the Ishinomori Manga Museum, and there are statues of characters designed by manga artist Shotaro Ishinomori here and there around the city.



キュレーター Curator 中沢新一
Shinichi Nakazawa

エリアテーマ Area Theme 海へのアート=リチュアル
Art-Ritual for Sea



海に向かって開かれた心を日本人に取り戻すために、黒潮の雄大な流れを石巻に呼び戻すアート=リチュアルが出現します。黒潮の発生場所ほど近いシンガポールからお呼びしたザイ・クーニン氏は、自らも海民の子孫として、海洋的自然と一体になった想像力を駆使して、人間に失われかかっている心の野生を取り戻すアート=リチュアルを実践してきた人です。「私はアーティストである前に一匹のオニでありたい」と語っているザイ氏は、海の霊力に深い感謝の念を抱いてきた人間の根源的な思いを、ダイナミックなアートに造形してくれるでしょう。

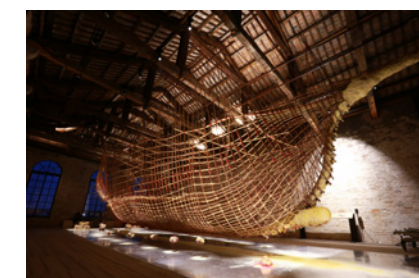
An "art ritual" intended to summon the majestic flow of the Kuroshio ocean current toward Ishinomaki will be staged to reopen the hearts of Japanese people toward the sea. Zai Kuning, invited from Singapore, near the source of the Kuroshio current, is himself the descendant of seafarers, and has been staging similar art rituals integrating the power of the imagination with the natural mean environment to resurrect the wildness of spirit that human beings are losing. "More than an artist, I want to be a kind of demon," says Mr. Zai, who is sure to shape the primal human emotions of deep gratitude toward the mystical power of the sea into dynamic and compelling art.

A1 石巻駅前
ザイ・クーニン、大崎映晋、山内光枝、中沢新一
Zai Kuning, Eishin Osaki, Terue Yamauchi, Shinichi Nakazawa

海に開く
Opening out to the sea

「かつて南の海域にスンダランドという巨大な大陸があった。そこには数万年前から人類が住みつき、狩猟と採集による豊かな文化を築いていた。スンダランドはアジア人にとっての魂の原郷であり、そこから四方に散らばっていった。氷河期が終わって地球の温暖化が進んで海水面が上昇すると、長い時間をかけてスンダランドは無数の群島を残して大半が海に沈んでしまった。そのとき多くの人々が海への脱出を敢行した。南の海域に海民として新しい生活の場所をみつけた人々も多かったが、なかには黒潮に乗ってはるばる日本列島にたどり着いた人々もいた。この人たちが列島に縄文文化を花開かせた。縄文はそののちの日本人と日本文化の基礎をつくった。だから私たちの魂は今も南の海域に向かって開かれているのである。日本人は黒潮をつづじて、海に沈んでいまはもう見えなくなってしまうスンダランドにつながっている。その黒潮が金華山の沖を滔々と北に向かって流れ続けている」(中沢新一)

企画: 中沢新一 会場構成: フジワラテッペイアーキテクトラボ / FUJIWALABO 協力: 株式会社 自由国民社、オオタファインアーツ



Installation view: Zai Kuning, *Dapunta Hyang: Transmission of Knowledge*, Singapore Pavilion, 57th International Art Exhibition - La Biennale di Venezia, 2017 © Zai Kuning, Courtesy of Ota Fine Arts, Shanghai/Singapore/Tokyo

A2 旧観慶丸商店 2F
ザイ・クーニン 茶碗の底の千の眼
Zai Kuning Thousands Eyes in the Bowl

石巻初の百貨店として、後に陶器店として約80年にわたり市民に親しまれてきた旧観慶丸商店。港町石巻の繁栄を象徴した特徴ある建物は、2015年石巻市有形文化財に指定され、文化の拠点に生まれ変わりました。この建物の歴史に呼応するように、ザイ・クーニンは、人々から集めた大量のお茶碗を用いた作品を構想しました。ご飯をよそうお茶碗は人の暮らしを映すもの、千の眼は石巻の未来を見つめていると作家は言います。「この作品を通して、困難を乗り越えて生活を取り戻した石巻の人々を尊敬し、彼らの記憶に感謝を捧げます」(ザイ・クーニン) 協力: お茶碗を提供していただいた皆様、オオタファインアーツ



Zai Kuning, *A Bowl of Rice*, 2008, Rice and gold, Dimensions variable (detail) © Zai Kuning, Courtesy of Ota Fine Arts, Shanghai/Singapore/Tokyo